

青森県「深」探求プログラム

青森県「深」探求プログラムとは

社会で
求められる力の
変化

問いを解く力から、問いを立てる力へ

私たちが生きる社会では、人工知能の進歩、ネットワークの高度化などにより、2030年には現存する仕事の約50%がなくなると言われ、生徒たちがこれからの社会で求められる力は大きく変わるとされています。
これからの社会では、機械では置き換えられない力すなわち、**課題設定能力**(自ら問いを立てる力)、**合意形成する力**(多様な価値観、考え方から1つの合意を導き出していく力)を身につけていくことが重要です。

社会で
求められる力を
育成するために

課題設定能力と合意形成する力を育成するプログラム

この2つの力を身につけるために、青森県の地域性を活かした**スタディツアー**と**ワークショップ**がセットとなった**9つのプログラム**を提供しています。スタディツアーで獲得した原体験や一次情報をもとに、ワークショップで課題設定、合意形成を行います。

お問い合わせ・お申し込み (公社) 弘前観光コンベンション協会 TEL: 0172-35-3131

プログラムの流れ

事前学習

地域の社会問題について調べてみよう

スタディツアー

社会問題の現場や関係者を訪ね、原体験や一次情報を整理しよう

ワークショップ

スタディツアーで獲得した情報をもとに、少人数グループで議論し、解決策を発表しよう

スタディツアー(3時間)

社会問題の現場や関係者を訪れ、原体験や一次情報を獲得

- 誰かによって編集・解釈された情報ではない生の情報のなかで、自ら収集・再構築・解釈することが求められ、実体験から問いを立てる実践的な力を育むことができる
- 今後社会に出る生徒たちが、社会の抱える問題を比較的早い段階から知り、考える機会を得ることにより、社会の担い手としての姿勢・態度を養うことができる
- 問題を解決するためには学ぶ必要があると感じ、学習の動機づけになる
- 家にも学校にもない社会を直接的に知ることができる



ワークショップ(3時間)

スタディツアーで獲得した情報をもとに 少人数グループで議論・発表・振り返り

課題設定のプロセス

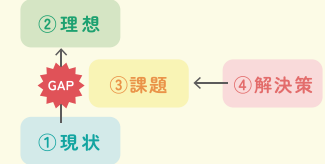
以下の①～④の手順で課題を立てていきます。

- ① スタディツアーで獲得した情報を整理し、因果関係を構造化する
- ② 理想状態を描く
- ③ 課題を設定する
- ④ 課題の解決策を考える

合意形成のプロセス

以下の①～③の手順で合意形成に努めます。

- ① 全員が議論に参加できるようなルールを設定する
- ② スタディツアーでの共通体験を踏まえた議論から、様々な視点・価値観を理解する
- ③ 多様な意見から、1つの結論や方向性を出す



スタディツアー
01
弘前市

弘前ねぶたから 地域における祭りの価値を考えるツアー

ツアー概要

東北の夏を代表する祭りであり、国の重要無形民俗文化財に指定されている青森ねぶたと弘前ねぶた。二つの祭りは大きな山車が街を練り歩くという共通点はあるものの、その内容は対照的で、弘前ねぶたは、例年80団体程が参加し、町内会などの地域コミュニティによる運行が守り続けられています。一方、青森ねぶたは、例年30社程の企業が中心となって運行される、青森市を代表する観光コンテンツと変化、市民に加えて観光客も多く参加する祭りになりました。

このツアーでは、弘前ねぶたの関係者から、青森ねぶたと比較しながら祭りの違いや共通点について学び、それぞれの地域や関係者にとって祭りが地域で担う役割や祭りの持つ価値について考えます。

また、地域の祭りをテーマに「経済的価値」「文化的価値」「祭りの持続可能性」など様々な観点から物事を捉えることを学びます。

スケジュール例

9:00-12:00 津軽藩ねぶた村
(弘前市)で
スタディツアー

**ねぶたの鑑見学、
太鼓・お囃子体験**
扇型ねぶたの形状やスケール、運行隊
形やお囃子、地域との関わり等につ
いて、青森ねぶたと比べながら学びます。
金魚ねぶた絵付け体験
まつりで子どもたちが持って歩く金
魚ねぶたに絵付けしてみよう。

講演・質疑応答
扇型ねぶたである歴史的背景や、
代々で参加している地元の方や市
民団体の姿などを学びます。

12:00-13:00 昼食
※津軽藩ねぶた村でも対応可能

13:00-16:00 ワークショップ
少人数グループで議論をし、
発表を行います。



スタディツアー
02
板柳町

りんご産業全体の可能性や未来を考えるツアー



ツアー概要

青森県のりんご栽培は明治時代から始まり、近年は国内シェア6割を占めています。一般的にりんごは、平地に比べ寒暖差が激しい丘陵地帯の方が美味しくなるといわれています。そのような中、平地が多い板柳町では、平地における美味しいりんごの栽培方法や、ジュースなどの加工技術の研究に取り組んできました。他にも、りんごを入れるための木箱をインテリア雑貨に転用する企業が町内に生まれるなど、りんご関連産業が育っています。

このツアーでは、地域の特徴を活かしつつ、りんご生産とともに関連産業が育つ板柳町を舞台として、農家や事業者の方のお話を聞きながら、地域を支える産業の可能性や未来を作っていくことを考えます。



ツアー行程

ふるさとセンター見学、農家さんのお話

りんごによる地場産業振興を目的として作られたふるさとセンターでりんごジュース等加工場やりんご園地の見学、季節によっては農作業体験をします。

りんごに関わる産業体験

りんごの葉や枝から抽出した染料による草木染め体験など、「食べる」以外のりんごにこだわった産業を学びます。

スタディツアー
04
平川市

現代に求められる新しい庭の楽しみ方から、地域における造園産業の未来を考えるツアー



ツアー概要

平川市の尾上地区は、昔から植木や造園が盛んであり、手入れの行き届いた生垣により美しい街並みを形成しています。

しかしながら、建築様式の洋風化や、車社会の発展による駐車場の必要性など様々な要因によって新たに庭を持つ家庭は減少し、既に庭を持っている家庭についても、冬場の雪に備えた「雪囲い」を含めた維持費の負担などから手放すようになっています。こうした状況によって造園の需要は減少し、市内に100以上あった造園業者は30程度になってしまいました。

このツアーでは、軽トラガーデンやモスベットなど、従来の造園業から発展させた新たな取り組みに挑戦している万年青園株式会社を訪れ、今後の造園産業の形を考えます。



ツアー行程

盛美国・お庭の見学、剪定体験

◎盛美国などのお庭を見学し、お庭の魅力を考えます。
◎実際に植物やハサミに触れ、剪定を体験します。

おもてん 万年青園株式会社の方からのお話、交流

平川市における造園業の歴史、現状の問題点、さらに軽トラガーデンやモスベットなど新しい取組などのお話をききます。

スタディツアー
03
西目屋村

インテリア雑貨BUNACOから地域と地場産業が共に成長する未来を考えるツアー



ツアー概要

世界最大級のブナ原生林が広がる世界自然遺産の白神山。そのブナは水分が多く建材や木工品などには適さず、処分されてきました。ブナコ株式会社ではテーブル状にしたブナを用いて様々な商品を作り、国内外で高い評価を得ています。近年、青森県で最も人口が少ない西目屋村の旧小学校校舎を、カフェやショップ等を併設する工場にリノベーションしたところ、白神山地でのトレッキングと併せて観光客が訪れるようになり、BUNACO西目屋工場を中心として、地域に賑わいが生まれています。

このツアーでは、地域の資源であるブナを活かした地場産業が、過疎化を抱える地域と共にどのように成長していくことができるかを考えます。



ツアー行程

BUNACO工場の見学、製作体験

旧教室で異なる作業工程を行っている様子を解説付きで見学した後は、ブナコの製作体験をします。

講演

スタッフの方から約60年に及ぶBUNACOの挑戦の歩みと実績、次なる展望と課題を聞き、地場産業が地域と共に成長する未来について考えます。

スタディツアー
05
黒石市

高齢化が進む観光地を盛り上げる「まちそだて」活動から地域活性化について考えるツアー



ツアー概要

日本の多くの地域で、少子高齢化、都市への人口流出、産業の空洞化などの問題が深刻化しています。そのような中、黒石市には地域を元気にしていくために主体性を持って活動している「横町十文字まちそだて会」があります。会では、カフェの設置、観光イベントや観光施設の運営など幅広い活動を行っています。

このツアーでは、「横町十文字まちそだて会」の活動に触れることを通して、地域を活性化させるためにはどのようなことが大切なのか、何を意識するべきなのかという「考え方」と、実際にどのような施策を打つのが効果的なのかという「手法」の両面を学び、これからの横町十文字を考えます。



ツアー行程

まちあるき

古くからの商家や江戸時代のアーケード状の通路を残した中町こみせ通り（重要伝統的建造物群保存地区）、シャッターを閉めた店が並ぶ通りを歩き、町の現状を学びます。

横町十文字まちそだて会の方からのお話、交流

横町十文字まちそだて会の活動や思い、町の変化についてお話をききます。

スタディツアー
06
弘前市

現代の伝統工芸ビジネスの可能性を考えるツアー【津軽塗】



ツアー概要

青森県唯一の経済産業省指定伝統的工芸品である津軽塗は、値段が高いながらも県内外に限らず国外にもファンを持つ美しい漆器です。

一方で、時代の変化とともに津軽塗の市場や職人は縮小傾向にあります。売上の維持拡大や後継者育成など様々な問題が出てきていますが、こうした状況乗り越えて、津軽塗の産業をこれからより一層発展させていくにはどうしたらいいのでしょうか。

このツアーでは小林漆器の経営者であり、職人でもある小林さんにお話をききます。さらに、津軽塗の製作工程やその商品を見学し、製作体験を交えながら、津軽塗ビジネスのさらなる可能性を描き、課題を考えていきます。

ツアー行程

津軽塗生産者との交流

小林漆器の経営者であり、自らも職人である方に、津軽塗の歴史や魅力、津軽塗を取り巻く状況や自身の取り組み等についてお話を聞きます。

津軽薄ねぶた村の見学

◎津軽薄ねぶた村で津軽塗の様々な商品や、職人による製作の様子等を見学します。
◎箸の製作工程における研ぎ出しの体験を行います。

スタディツアー
08
平川市

14,000世帯の生活を支えるバイオマス発電所で、再生可能エネルギーのありかたを考えるツアー



ツアー概要

私たちの生活に欠かせない電気は、原子力、火力、水力、太陽光、風力など様々な発電方法で供給されています。その一つである「バイオマス発電」は、間伐材やごみなどを生かした、資源の有効活用と環境負荷の軽減に貢献する発電方法です。理想的な発電方法に見えますが、発電効率が低いこと、原料の安定確保が難しいこと、発電過程で多くの排熱が生じることなど様々な課題を抱えています。

このツアーでは、リンゴの枝や間伐材を用いたバイオマス発電に加え、排熱を利用したトマト栽培にも取り組む「津軽バイオマスエナジー」を訪れ、バイオマス発電のメリットや抱える課題、多様な発電の方法について学び、これからの発電のあり方について考えます。

ツアー行程

津軽バイオマスエナジーの見学、トマト試食

◎バイオマス発電の一連の流れを実際に見学します。
◎排熱を利用した温室で栽培されたトマトを試食します。(時期により提供できない場合有)

経営者によるお話、交流

◎日本や海外の発電種別割合や各発電方法のメリットデメリットなどの基礎知識とともに、なぜバイオマス発電の拡大が難しいのかを学びます。
◎どのような形で地域に貢献しているか、お話をききます。

スタディツアー
07
弘前市

現代の伝統工芸ビジネスの可能性を考えるツアー【こぎん刺し】



ツアー概要

江戸時代、津軽の農民たちは麻の着物しか着ることが許されませんでした。そこで、厳しく長い冬を少しでも快適に過ごすため、木綿の糸で刺し子を施す「津軽こぎん刺し」が生まれました。

弘前市の「こぎん研究所」は経営難の時期もありましたが、様々な有力企業やファッションブランドとのコラボレーションなど多様な商品開発によって活躍の場を徐々に広げています。また、作業は80人ほどがシフト制で行っており、地域の働き手の一つとなっています。

このツアーでは、こぎん刺し製作の場を訪れ、作業工程や出来上がった作品、こぎん研究所代表の方の思いに触れ、こぎん刺しビジネスのさらなる可能性を考えます。

ツアー行程

こぎん研究所、機械や糸、多様な商品を見学、製作体験

◎昔から使われる機械や調達が難しくなってきた糸、商品製作の様子を見学します。
◎名刺入れ、バックなど多様な商品を見学し、製作体験をします。

こぎん研究所の方からお話、交流

こぎん研究所の再建に取り組んできた代表の方から、現状の問題点や取組などのお話をききます。

スタディツアー
09
平川市

弘南鉄道大鰐線の廃止問題から地域の公共交通を考えるツアー



ツアー概要

人口が集中し鉄道網が発達している都市部に対し、人口が減少し車中心の生活となっている地方においては、鉄道の廃線が身近な問題となっています。

弘前市と大鰐町を繋ぐ弘南鉄道大鰐線においても利用者減少が著しく、2013年に廃線の意向が示されました。しかし、沿線住民からの廃線反対の強い声により廃線撤回となり、それ以降、利用者増加を目指し交通事業者や地域住民、行政からなる協議会を立ち上げるなど、様々な取組を行っています。

このツアーでは弘南鉄道の乗車体験や、弘南鉄道株式会社、弘南鉄道アソビプロジェクトのメンバーから話を聞き、地域の公共交通をこのことから考えます。

ツアー行程

弘南鉄道に乗りし、駅や町の様子を見学

レトロな駅舎と車両を見学し、列車に乗りします。乗降する利用者の様子、車窓に広がる山々や、各駅の様子を観察し、地域の状況・問題を考えます。

弘南鉄道株式会社、弘南鉄道アソビプロジェクト

弘南鉄道を「遊び」で盛り上げようと活動する有志団体アソビプロジェクトのメンバーから話を聞き、地域の公共交通を守るためにはどうしたら良いかを考えます。